



# ほづみ法律事務所 NEWS Vol.1

2018.12

年内も余日わずかとなりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。さて、川崎・新百合ヶ丘駅前に当事務所を開設してから1年8か月となります。おかげさまで所員一同元気に過ごしており、このたび初めての事務所ニュースをお届けいたします。

巻頭に掲載した写真は、当事務所の開設に当たって、私が弁護士になる前に勤務していた会社(旭化成)の先輩方から贈っていただいた「想」の書です。当時の上司の同級生でいらっしゃる岩切誠先生によるものです。

弁護士には「基本的人権を擁護し、社会正義を実現する」という使命があります(弁護士法1条)。人権擁護と社会正義は、弁護士として活動する上で常に意識することでありながら、どちらも形あるものではないので、常に想像しながら取り組むしかありません。とりわけ、差別や暴

力、災害などによって苦境に立たされている方々の言葉に表せぬ思いを受け止めようとする時、想像し、共感する努力を怠ってはならないと思っています。「想」の字は、往々にして易きに流れようとする自分に対する戒めとなり、導きともなるので、先輩方より「漢字1文字を選んでよい」と言っていた時、この字を選びました。

力強さ、優しさ、繊細さと躍動感を兼ね備えたこの書を、当事務所のエントランスに飾らせていただいております。お立ち寄りの際にご覧いただければ幸いです。

弁護士 穂積 匡史



相談予約  
受付中

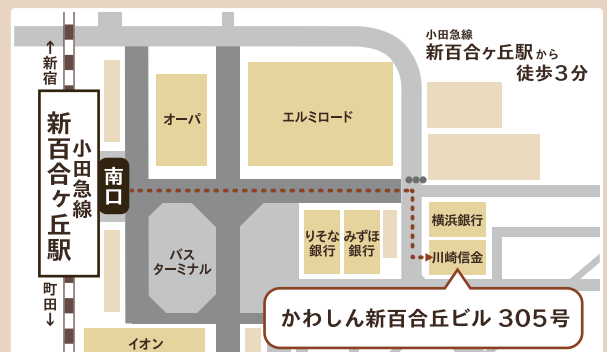
お困りのこと、ひとりで悩まず  
お気軽にご相談ください

tel 044-959-3550

〒215-0021

川崎市麻生区上麻生1-6-1 かわしん新百合丘ビル305号

ほづみ法律事務所 <https://hozumi-shinyuri.jp/>



## 勝利報告 日本IBMの労働争議 全面解決へ

日本IBMは、2012年以降、労働組合員を「業績不良」の口実で次々と解雇しました。これに対し、労働組合は東京都労働委員会に不当労働行為救済申立てを行い、また、組合員11名が5陣にわかれて東京地方裁判所に民事訴訟を提起しました。その後、組合員資格否認事件についても東京都労委に救済申立てを行いました。穂積弁護士は労組の弁護団に加わり、東京都労委の2つの事件と第5陣訴訟では、主任として取り組んできました。

東京地裁では次々と組合員勝訴（解雇無効）の判決が言い渡され組合員の職場復帰が実現するなどし、2018年9月25日には東京都労委で全体的な和解が成立し（写真はこの時のもの）6年越しの全面解決となりました。

日本IBMは、かつて経営者が自ら「新たなリストラ策の毒見役」を公言していた会社です。このような解雇や組合攻撃を許せば、追従する企業の続発が必至でしたが、労働者が団結して跳ね返したのです。労組の存在意義を再認識させる争議でした。



### 法律 まめ知識

## 成人年齢18歳に引き下げ 養育費はどうなるの？

2018年6月、成人年齢を20歳から18歳に引き下げる民法改正が成立しました（2022年4月施行）。そのため「今後は18歳までしか養育費を貰えなくなるの？」と心配する声を聞きます。

しかし、養育費と成人年齢はリンクしません。今回の成人年齢引下げの契機が18歳選挙権による若者の権利の拡充にあったのに対し、養育費の趣旨は、未成熟の子の生活保障にありますので、たとえ18歳を超えても、子が未成熟である限り、養育費の必要性は失われません。日本は、ひとり親家庭（その9割は母子家庭）の貧困率が世界的に見ても突出して高く、離婚した母子に冷たい社会です。これに追い打ちをかけるように養育費まで早期に打ち切るとすれば、若者の権利は逆に損なわれてしまい、本末転倒です。

実際、今回の民法改正に当たって、参議院法務委員会は、「成年年齢と養育費負担終期は連動せず未成熟である限り養育費分担義務があることを確認する（後略）」という附帯決議を行っています。

したがって、成人年齢引下げによって養育費の終期も引き下げられるなどということは、あってはならないことなのです。

（穂積匡史）

## 穂積弁護士担当事件の 裁判例が掲載されました



穂積弁護士が担当した事件の判決が判例雑誌に掲載されました。詳しくは当事務所のホームページをご覧ください。

### 「ジュリスト平成29年度重要判例解説」

エイボン・プロダクツ事件（会社分割・解雇）  
東京地裁判決の判例評釈

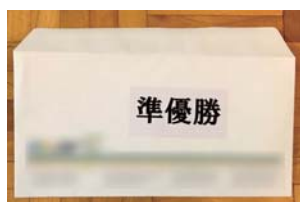
### 「労働判例1183号」

日本IBM事件（解雇・第5次）東京地裁判決

### 「労働判例1184号」

東京港運送事件（残業代請求）東京地裁判決

## 事務局より



お休みの日は、テニスにはまっています。速いサーブ、力強いストロークなど打てれば、もちろん良いのですが、女子ダブルスの試合の中ではいかにペアの前衛に決めてもらえるようなボールを作るか、配球、相手へのプレスなど、とっさに判断する重要なことが他にもたくさんあります。週イチのレッスンでは、担当コーチから「そこじゃない!!」「プレスが足りない!」「遅い!」と部活の様な指導を受けています。

先日、所属の学校の小さな大会で準優勝することができました。これからも頑張りたいと思います。

事務局 S

オーロラを見るべく、フィンランド旅行へ行ってきました。前日関東に上陸した台風の影響で出国が危ぶまれましたが無事到着。飛行機から見下ろすフィンランドはまさしく森と湖の国でした。当たり前のようにキレイな空気と満天の星空。到着したその日、突然目の前に現れたオーロラの美しさには息をのみました。言葉も「キートス（ありがとう）」「モイモイ（バイバイ）」と可愛らしい語感。人々も温かく、とても豊かな国でした。



事務局 H